

Q31 TTあるいは個別支援者による指導に関して

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

登校する時も歌を口ずさんでいて、歌うことが大好きなAちゃんは、教室では元気いっぱい歌います。でも、音楽の授業では「行かない」「やらない」と、廊下に座りこんでしまうことがあります。

自閉症の子どもは、パターン化された行動はできても場面が変わるとできなくなったり、苦手な活動を避けたりする傾向があります。このようなときは、数分間しか着席できず動き回ったり、自分の世界に入り周囲との関係を遮断するように見えるなど、様々な様相を示します。このような状態になった場合は、担任一人での指導や支援には限界があります。そのため、校内支援委員会を設置して指導についての方針を立てたり、可能ならTT（ティーム・ティーチング）や個別支援者による指導を実施したりすることが必要です。

〈このような場合の支援 1〉

小学校1年生の知的障害を伴う自閉症の男児。数字に強い関心を持っていますが、算数では、くり上がりやくり下がり計算に時間がかかり、授業中は落ち着かず、大声を出したり離席することもあります。そこで、補助の教師（または個別支援者）が加わり、TTでの指導を行うことになりました。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① LT（リーダー教師）とAT（補助する教師）の役割を明確にして学習を進める（例：LTは全体への指示を行う。ATは注意の集中を促す、聞き取れなかったことを補助する、分かりやすく教える、など）。
- ② 学習の進め方を明確にする。全体指導をする場面、個別支援をする場面などを明らかにする。
- ③ 本人の状態に応じて、AT（補助する教師）の支援は徐々に減らすように心がける。
- ④ 必要なら本人に合わせた別教材の使用等も考える。その際は、保護者とも十分話し合いを行っておく。

〈このような場合の支援 2〉

小学校3年生の高機能自閉症の男児。朝の会や帰りの会の歌は、とても元気よく歌います。しかし、音楽（専科教員）の授業では、特に合奏の時間になると「音がうるさい」と言って、時間中ずっと耳を押さえることが続きます。そのため、補助の教師が加わりTTでの指導を行うことになりました。このような場合、補助教師による支援の方法としては、以下のようなことが考えられます。

- ⑤ 合奏の大きな音に対しては、過敏性の問題も考えられるので、耳ふさぎをしている場合は無理に止めることはしない。
- ⑥ 本人のリコーダーの演奏が十分でない場合は、状況に応じて廊下や別の部屋で個別に練習する機会を設ける。
- ⑦ 本人から「何が難しいか」「できない場合はどうしてほしいか」等の希望を聞いて、可能な限り対応する。
- ⑧ 本人の状態や希望に応じて、AT（補助する教師）の支援は徐々に減らすように心がける。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子